



シリーズ227

高めよう!  
人権意識

心のかけ橋

問 人権・生涯学習課  
(☎928-1006)

多様な性の在り方が  
大切にされる社会をめざして  
性的マイノリティーについて

「LGBTって?」

近年、新聞やテレビなどで「LGBT」「性的マイノリティー」に関する話題が多く取り上げられるようになりました。

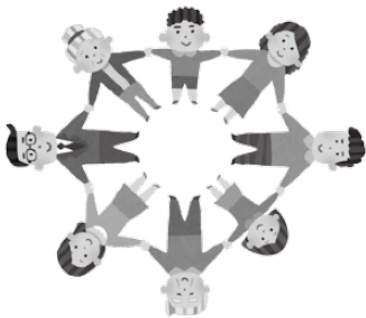
LGBTとは「L」レズビアン(女性同性愛者)、「G」ゲイ(男性同性愛者)、「B」バイセクシャル(両性愛者)、「T」トランス・ジェンダー(体の性と心の性が一致しない人)の頭文字をとった言葉で、性的マイノリティー(少数者)のことです。

「L」で性といっても性別や性格、その人らしさなど、そこには多様な意味があります。性的マイノリティーは主に3つの性の組み合わせからできていると考えられています。

- ・体の性(生まれた時の性)
  - ・心の性(自分が感じている性)
  - ・好きになる性(好きになる相手の性)
- これらの3つの性を「自分の性」として考えてみると、その感じ方の度合いは人それぞれ異なります。

性は男と女の2通りしかないと考えられがちですが、本来はもっと多様で、100人いたら100通りの性があると言われています。人の数だけセクシャリティ(性の在り方)が存在します。

その違いを知るとともに、お互いに理解し合うことが必要です。決して他人ごとではなく、誰もが当事者でもあるのです。



「いなく」のではなく  
「気付いていなく」

2016年にある民間研究所が全国の約10万人を対象に実施した調査によると、日本では人口の約8%13人に1人がLGBTに該当すると

報告されており、決して少ないとは言えない数字です。

しかし「周りにそういった人はいない」「今まで会ったことがない」と思っている人が多いのではないのでしょうか。社会的に正しい理解が十分に広まっていないため、学校や職場、家庭、地域、そして社会からの偏見や差別によって苦しんでいる人たちが存在しているのが現状です。

一方で、LGBTについて理解し、積極的に応援する「アライ」と呼ばれている人も多く存在しています。アライは「味方」という意味で、芸能人やスポーツ選手など多くの人の共感を得て、世界中に広がっています。

ありのままの自分であるために

私たちは、誰もが自分らしく生きていく権利をもっています。

一人ひとりがLGBTについて正しく理解し、ありのままの個人を認め合うことが大切です。

LGBTは特別なことではなく、尊重すべき個性の一つであることへの理解を深め、全ての人が「性」に関係なく自分らしく生きていくことができる社会をつくるために、みんなで考えてみましょう。

認め合おうみんな違ってあたりまえ